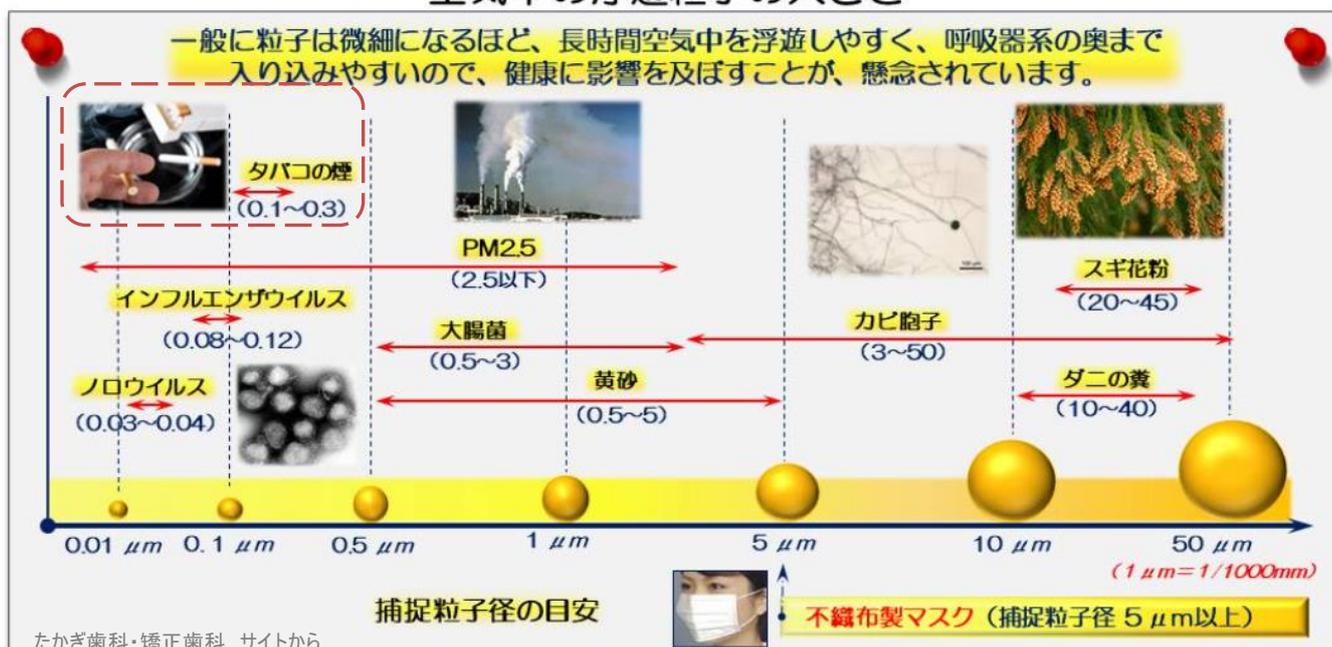
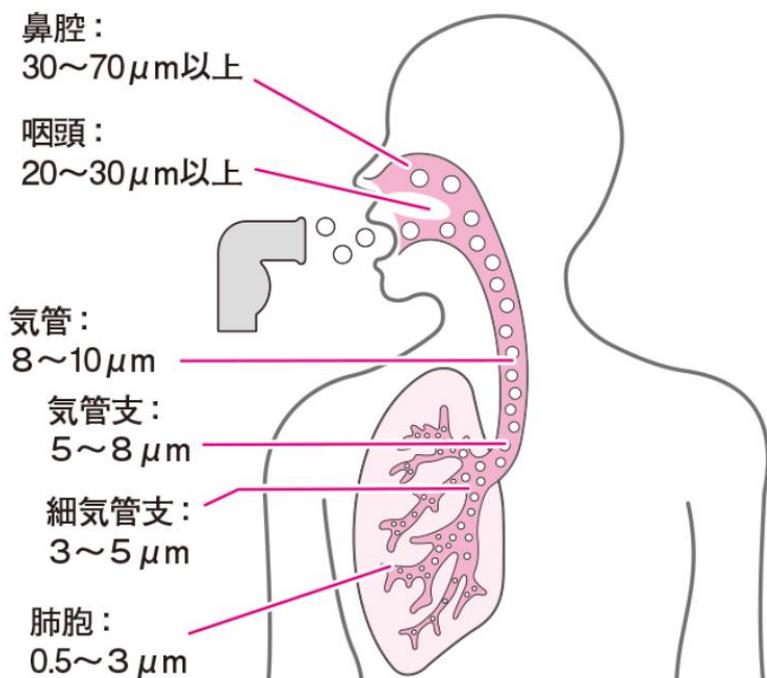


白く見えるタバコの煙は、しばらくすると見えなくなりますが、成分が消えるわけではなく空気中に拡散します。じつはその粒子は非常に小さい事を知っていますか。下図にあるとおり、スギ花粉の直径20~45 $\mu\text{m}$ (0.020~0.045mm)に対して、タバコの粒子はその100分の1にあたる0.1~0.3 $\mu\text{m}$ (0.0001~0.0003mm)しかありません。ウイルスと同じくらいの微粒子ですから、長時間空気中を浮遊し様々な所のすみずみまで届く可能性が高いのです。

空気中の浮遊粒子の大きさ



粒子の大きさと到達部位



看護 roo! サイトから

では、そんなタバコの粒子を吸い込むとどうなるのでしょうか。左図のようにスギ花粉程度の粒子はノド付近で止まりますが、タバコの粒子は気管や気管支を通過し肺の深部にある肺胞まで届いてしまうのです。有害物がこんな奥まで届くなんて恐ろしいですね。

肺胞にこんな微粒子が届くと肺胞が炎症を起こし壊れていきます。一度壊れた肺胞はもとに戻りませんので、肺機能が低下していくのです。

やっぱり、タバコは怖いですね。

産業デザイン科 奥田恭久